

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 1 回相模原市農村環境計画策定検討委員会		
事務局 (担当課)	農政課津久井班 電話042-780-1416 (直通)		
開催日時	令和6年12月24日(火) 14時00分～15時10分		
開催場所	けやき会館 2階 職員研修室		
出席者	委員	5人(別紙のとおり)	
	その他	5人(コンサルタント)	
	事務局	5人(高野経済担当部長、農政課長、外3人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 委員委嘱</li> <li>2 委員長選任</li> <li>3 議題               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 農村環境計画の策定について</li> <li>(2) 農村環境計画策定検討委員会の議題案について</li> <li>(3) 農村環境計画の構成案について</li> <li>(4) 農村環境計画について</li> <li>(5) その他</li> </ul> </li> </ul>		

## 議 事 の 要 旨

### 1 委員委嘱について

高野経済担当部長より各委員に対し委嘱状を交付し、委嘱を行った。

### 2 委員長選任について

委員の互選により、麻布大学教授の塚田英晴委員が委員長に就任した。

### 3 議題

#### (1) 農村環境計画の策定について

農村環境計画の策定について事務局より説明を行った。

(柳下委員) 委員の任期は令和7年3月までとなっている。その後、パブリックコメント等の手続きが予定されているが、当委員会は「農村環境計画(案)の作成段階までにおいて意見を出す」という認識でよろしいか。

(事務局) お見込みのとおり、計画の素案を作成するまでが本委員会の役割としている。その後のパブリックコメントの意見反映などは事務局で行い、その結果、大幅な修正が必要であれば再度招集することも考えられるが、基本的には令和7年度の作業は事務局にて行うこととしている。

#### (2) 農村環境計画策定検討委員会の議題案について

#### (3) 農村環境計画の構成案について

#### (4) 農村環境計画について

以上3項目について一括してコンサルタントより説明した。

(塚田委員長) イノシシやシカの生息範囲拡大に伴い、ヤマビル等による衛生被害の拡大も課題として挙げられる。また、ダニ類によるダニ媒介感染症に係る課題についても、計画に記載するべきである。

(コンサルタント) 前回の旧津久井町の計画では、鹿による害とセットで記載されているようである。いただいた内容は、鳥獣被害の項にて整理する。

(事務局) 旧相模原市域の鳥獣被害の実情はどのような特徴があるのか。

(篠崎委員) アライグマやハクビシンによる被害が増えているという傾向がある。また、最近ではカラスが定植後の苗を引き抜くという被害も増加している

(石井委員) 諏訪森下あたりでは鹿が川を渡っているとの目撃情報もあり、実際に大島あたりでは鹿の被害がでていと伺っている。

(塚田委員長) 観光の観点では、ファームステイなども計画に反映されていくのか。

(コンサルタント) 観光の観点では、市民農園などが該当し、本計画の中でそのような観光資源を整理していく。現在は、農業に求められる目的も多様化しており、リニア中央新幹線の開通により市外・県外からの来訪者の増加も予想される。このような背景に基づき、本市における観光情報を整理する予定である。

(石井委員) 農業にとって観光は大きな要素であり、現在検討を進めている金原地区土地改良事業でも観光の要素を取り入れていく必要があると捉えている。

(塚田委員長) インバウンドの動向も気になるところである。リニア中央新幹線が開通した際には、大きな需要が見込まれるのと感じる。

(石井委員) 観光需要でいうと、「昔ながらの農村」を求めているようであり、特に青根地域などではその傾向が強くと見られる。

(塩脇委員) ナガエツルノゲイトウなどの被害も出ているなか、外来種による被害も本計画の対象となるのか。また、用水路などの土地改良施設も本計画に含まれるのか。

(事務局) ナガエツルノゲイトウについては、今年、旧城山町域の葉山島の水田において大きな被害があったと聞いている。相模川左岸においても被害があるのか。

(塩脇委員) 相模原市内では磯部付近、県内では下流の茅ヶ崎方面でも被害が広がっているようである。おそらく相模川から取水した際に広がっているのではと考えている。

(コンサルタント) 前回の計画では水草の外来種に関する情報は少なく、飼料作物に関連して情報が整理されていたようであるが、ナガエツルノゲイトウについては注視すべき外来種と捉えている。また、用水路などの土地改良施設も計画の中で整理していく。農村環境計画では、希少種の保全という視点のほか、外来種の拡大防止という観点からも情報を取りまとめて載せていくこととなるが、その一つひとつの課題に答えを出していくものではなく、考えるきっかけとなるようなデータベースとして整理していくものとなる。

#### (5) その他

事務局より、次回会議を令和7年2月中下旬に実施することを報告した。

以 上

## 相模原市農村環境計画策定検討委員会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	塚田 英晴	麻布大学獣医学部動物応用科学科 野生動物学研究室	委員長	出席
2	篠崎 雅人	相模原市農業協同組合		出席
3	角田 恵子	神奈川つくい農業協同組合		欠席
4	石井 好一	金原地区土地改良事業推進委員会		出席
5	塩脇 和弘	神奈川県相模川左岸土地改良区		出席
6	柳下 勉	神奈川県県央地域県政総合センター 農地課		出席